

地域スポーツイベントに対する立場別評価の違いに関する研究

～ボランティア・開催地住民・ランナーの比較を通して～

片岡ひなた

指導教員 前田和範

研究背景

スポーツは、地域社会の活性化や人々の交流促進に寄与するものとして注目されている。近年の研究では、地域で開催されるノン・メガスportsイベントが持続可能な社会的効果をもたらす可能性が指摘される一方で、地域への負担などの負の影響を生じさせる可能性もある。しかし、スポーツイベントに対する評価について、参加者・ボランティア・開催地住民といった立場の違いによる差異を比較した研究はいまだに十分に行われていない。

研究目的

本研究の目的は、地域スポーツイベントに関わる主要なステークホルダーである「ボランティア」「開催地住民」「ランナー」の三者に着目し、スポーツイベントがもたらす社会的効果に対する評価の違いを明らかにすることである。

研究方法

本研究では、アンケート調査により実施した。三者のステークホルダー間で評価を比較するため、ボランティア・開催地住民・ランナーのすべてに対して同一の質問項目を用いた。ボランティア77名、開催地住民94名、ランナー449名の有効回答が得られ、それらを対象に分析を行った。

分析結果

社会的効果については、多くの項目で三者ともにポジティブな評価が見られた。特に、イメージ向上や運動への興味促進は共通して高く評価されていた。一方、「新しい人間関係の構築」や「幸せを感じる」「交流が増える」では、立場によって評価に差が見られた。また、税金の無駄遣いや交通渋滞、治安悪化といったネガティブな影響については、三者とも評価が低く、懸念は小さいことが示された。

考察・結論

本研究の結果から、地域スポーツイベントがもたらす社会的効果は、関わり方や立場の違いによって評価が異なることが明らかとなった。特に、交流や幸福感といった側面では、立場ごとに評価の傾向が異なることが明らかとなった。今後は、ランナー同士の交流や住民とランナーの接点を意識的に創出するなど、各ステークホルダーが大会を通じて多様な価値を実感できるような運営の工夫が求められる。